

環境	11	□ 【廃棄物】 ・ 廃棄物の管理を適切に行い、適切な処理に取り組んでいる	基本	・エネルギー産業に携わる者として、環境問題への取り組みを経営の重要課題と位置付け、中部電力グループ環境基本方針のもとグループ全体で取り組みを進め、廃棄物の社外埋立処分率:1%未満を目標に、廃棄物の削減に取り組んでいます。中部電力グループの2018年度の産業廃棄物は163.9万tで社外埋立処分率は0.68%となりました。										11.6	12.4		14.1		
	12	□ 【エネルギー・温室効果ガスの現状把握】 ・ 自社のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握している	基本	・エネルギー産業に携わる者として、環境問題への取り組みを経営の重要課題と位置付け、中部電力グループ環境基本方針のもとグループ全体で取り組みを進め、特に、地球温暖化対策では、「電気事業低炭素社会協議会」に参画し、電力業界全体でのCO2排出量削減目標の達成を目指していきます。						7.3						13			
	13	□ 【省エネ・温暖化対策の計画・取組】 ・ 自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる	基本	・「長野県地球温暖化対策条例に基づくエネルギー供給計画書兼実施状況等報告書」により、毎年の実績を把握し報告しています。						7.2 7.3					12.4	13.3			
	14	□ 【有害化学物質】 ・ 法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	基本	・関係自治体との環境保全協定や公害防止協定に基づき、環境保全の諸対策を実施しています。また、周辺環境のモニタリング調査により、環境への影響について問題がないことを確認しています。 ・大気汚染対策では、排煙処理として硫黄・脱硝装置の設置などにより、火力発電所からのSOx(硫黄化合物)、NOx(窒素酸化物)の排出を抑制し、火力発電電力量あたりの排出量は世界最高水準を達成しています。			3.9							11.6	12.4				
	15	□ 【生物多様性】 ・ 自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	基本	・技術開発の推進や建設工事における生物への配慮をはじめとし、生物多様性の保全に努めています。 ・社有地や電力設備周辺で生育が確認された希少植物を保護するため、植物個体の増殖や群落再生に関する研究に取り組んでいます。 ・河川管理施設および周辺地に侵入する特定外来生物(植物)の駆除を進め、生物多様性の保全に努めています。													15		
	16	□ 【3Rの推進】 ・ リデュース、リユース、リサイクルに取り組んでいる	基本	・「廃棄物の社外埋立処分率:1%未満」を目標に、廃棄物の発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)の3Rに取り組んでいます。2018年度の廃棄物発生量(注)は163.9万t、うち社外埋立処分量は1.1万tとなりました。											12.5	14.1			
	17	□ 【水の管理】 ・ 水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる	チャレンジ	・既設水力発電設備は、逸失電力量低減などの取り組みを継続的に実施し、当初計画以上の発電電力量増加を目指すとともに、水力一貫運用の強みを活かした生産性向上を推進し、水資源を最大限に活用していきます。							6.4 6.6								

26	□	【紛争鉱物】 ・紛争鉱物を取り扱っていないことを確認している	チャレンジ	【非該当】 ・取り扱いしていません。																16	
27	□	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる	チャレンジ	・「中部電力グループCSR宣言」に基づき、「中部電力グループ調達基本方針」、「パートナーの皆さまへのお願い」を定め、中部電力グループとお取引先の皆さまとが、相互に信頼関係の醸成に努め、パートナーシップをより強固なものとするとともに、協同してサプライチェーン全体で、企業の社会的責任(CSR)を果たし、社会の持続可能な発展に貢献していきます。				5		8		10		12	13	14	15	16	17		
28	□	【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している	基本	・安価で高品質なエネルギーを安全かつ安定的にお客さまにお届けすることが、公益事業者としての中部電力グループの最大の責務であると考えています。そのために、グループの全従業員が持てる力を現場で最大限に発揮して、電力の安定供給に取り組んでいます。 ・お客さまに安全で安価な電気を安定してお届けするため、安全性の確保を前提に、供給の安定性、経済性、そして環境の保全の同時達成を目指し、原子力、火力、再生可能エネルギーなどの太陽光電源をバランスよく組み合わせた電源構成の確立に取り組んでいます。 ・発電所から変電所まで送電線により電気を運びます。変電所からは配電線によりお客さまに電気をお届けしています。24時間365日、お客さまに良質な電気を安全・安価で安定的にお届けできるよう、電力ネットワーク全体を監視・コントロールしています。					3.9					12.4							
29	製品・サービス	□	【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している	基本	・「良質な電気を安全・安価で安定的」にお届けするため、2018年度の一連の大規模災害を受けて取りまとめたアクションプランを確実に実施していくとともに、訓練を通じた対策の実効性を高め、電力インフラのレジリエンス(強靭性、回復力)の強化に努めていきます。 ・スマホアプリ「停電情報お知らせサービス」の提供を通じ、いち早くお客さまに停電情報および復旧状況をお知らせするとともに、チャットで電気設備に関する相談ができるなど、お客さまへの情報発信を強化しています。													9			
30	□	【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	チャレンジ	・「中部電力グループ環境基本方針」に基づき、低炭素社会の実現に向け、原子力発電の安全性向上対策、再生可能エネルギー(水力、陸上風力、バイオマスに加え、洋上風力や地熱等の新たな取り組みを含む)や高効率火力発電の開発(高経年火力を高効率で環境負荷の低い最新鋭火力へ計画的にリプレースと燃料調達を含めた運用の最適化)などに取り組んでいます。							6				12	13	14	15			
31	□	【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	チャレンジ	【予定】 ・少子高齢化や人口の偏りが進み、人と人とのつながりが薄れていく「コミュニティの希薄化」という社会課題に対し、さまざまなつながりを生む「新しいコミュニティの形」を提供することで解決を目指します。 ・それらを実現するため、低炭素化、お客さま起点、デジタル化をキーワードとした「コミュニティサポートインフラ」を創造していきます。 ・コネクテッドホーム(明るさに応じた照明調整、エアコンの最適運転、宅内確認などが可能となり、高齢者の見守りをはじめ安心で快適な生活を提供していきます) ・これからデンキ(引き続き余剰電力の買い取りを行うほか、再生可能エネルギー由来の電気を発電するお客さまと環境負荷の低減に関心のある企業をつなぐプラットフォームを構築していくことで、多様な「お客さま参加型エネルギーサービス」を提供していきます)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

38 組織体制	<input type="checkbox"/>	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体）	基本	・営業所窓口、カスタマーセンター、営業担当者などを通じた「個人・法人」お客さまとの対話活動を実施しています。 ・個人投資家に対する会社説明会、機関投資家・個人株主に対する個別面談、個人株主の皆さまに対する施設見学会を実施しています。 ・女性モニターに対する施設見学会・意見交換会を実施しています。 ・取引先を対象としたコンプライアンスなどに関するアンケートを実施しています。 ・役員が全事業場を訪問し、現場従業員と直接対話をする役員キャラバンを実施しています。															16	17	
	<input type="checkbox"/>	【リスクマネジメント】 ・リスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している	チャレンジ	・カンパニー社長、本店の部門長が責任者（リスクオーナー）として業務執行上のリスクを管理しています。 ・リスク管理部署において、経営に重大な影響を与えるリスクを総合的に把握・評価しています。 ・経営に重大な影響を与えるリスクは、リスクマネジメント会議において対応方針を審議のうえ、これを経営計画やリスク対策に反映しています。															16		
	<input type="checkbox"/>	【社会的責任】 ・CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取り組んでいる	チャレンジ	・CSR（企業の社会的責任）の考え方について、全てのステークホルダーの皆さまに対して、わかりやすく明確なメッセージの形でお伝えするため、2006年に中部電力の「CSR宣言」を制定しました。2008年3月には、中部電力グループがグループ全体としてCSRに取り組んでいくため、この「CSR宣言」を「中部電力グループCSR宣言」に改定しています。 ・この理念をグループで共有しつつ、業務の遂行を通じて、この宣言に掲げた取り組みを着実に進めています。																16	
	<input type="checkbox"/>	【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している	チャレンジ	・大規模災害発生時においても継続すべき業務を確実に実施するため、BCP（事業継続計画）を作成するとともに、継続的に改善するBCM（事業継続マネジメント）の仕組みを通じて、非常時への対応力の維持・向上を図っています。									9	11			13 13.1			16	
	<input type="checkbox"/>	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	チャレンジ	・お客さまから選ばれ続け、持続的に発展していくためには、多様な人材がそれぞれの能力を伸ばし、活躍できることが重要だと考えています。女性や高齢者、チャレンジド（障がい者）といった方たちにとっても働きやすく、すべての人材が活躍できるよう、教育や職場環境の整備を推進しています。									8	9							17

上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組	具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		

【記載留意事項】
・「取組レベル」の「基本」の項目のすべてに「具体的な取組」が記載されることが登録の必須条件となります。なお、今回の宣言に合わせて、今後、取り組む予定のものにあっても「具体的な取組」を記載いただければ登録が可能です。（今後、取り組むものについては、「具体的な取組」の前に【予定】と記載してください。）
・「非該当」欄については、「チェック項目」が事業形態上（個人事業主等）、該当しない場合にチェックし、その理由を「具体的な取組」欄に記載してください。
・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載してください。
また、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等（※）を取得している場合は、その旨を併せて記載してください。
（※職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度、信州福祉事業所認証・評価制度、えるぼし認定、森林認証制度、森林CO2吸収評価認証制度、長野県県産材CO2固定量認証制度、消防団協力事業所表示制度など）